委員会報告

雑誌委員会　　吉田　透委員

・ロータリーの友10月号の紹介。

ロータリー情報委員会　　新井康司委員長

・今晩、ファイヤーサイドミーティング最終日です。これまで都合で参加できなかった方、再度参加してみようと思われる方、お待ちしております。

米山奨学委員会　　古谷典子委員長

・10月は、米山月間です。ロータリー米山記念奨学会より2012-13年度版豆辞典が届きましたので、各自トレーに入れています。ご一読下さい。皆様、御協力よろしくお願いします。

プログラム

『米山記念奨学生の私と母国ラオス、小学校への貢献』

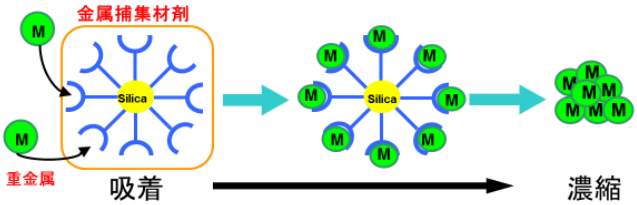
RI第2640地区
2011-13年度米山記念奨学生

Douangphila Phoutthavanh
ドウアンピラー・プッタワン君
（ラオス人民民主共和国）
（和歌山西RC）

私の自己紹介：

私は２００５年から２０１１年まで国費留学生として日本に留学し、日本の環境汚染対策に関する技術レベルが最先端で、その国に留学できることは大きな希望を得ることになった。２００９年に和歌山大学に編入したとき、５月に開催された一つのロータリークラブの研修会でのライラセミナーに参加した。そこで、初めてロータリークラブを知った。２０１１年に和歌山大学大学院に進学し、２つの奨学金を申請したが、ロータリー米山記念奨学生としてロータリーの奉仕や活動にもっと参加したいため、米山記念奨学生になる資格を選択した。大学院では研究・勉学をしながらロータリークラブとの交流を積極的に行っている。

私は「高感度金属イオン分析のための金属捕集剤の開発」というテーマで研究に取り組んでいる。環境水中の人体に有毒な重金属の定量が必要とされているが、希薄であるため、前処理により濃縮する必要がある。本研究では重金属を捕捉できる吸着剤を作製し、希薄水溶液中の様々な重金属イオンを簡便に濃縮させて金属定量を行うことを目指した。



母国ラオス：

インドシナ半島にひっそりと存在するラオスは、中国、ミャンマー、タイ、カンボジア、ベトナムの５カ国と国境を接し、日本の本州ほどの広さを持つ内陸国である。日本の季節が春夏秋冬の４季と違って熱帯性モンスーン気候に属し、雨季（５月～９月）乾季（１０月～４月）の２つのシーズンに分かれる。国土は２３６，８００k㎡でそのうちの約７０％が高原や山岳地帯で、シェンクアン県のプービア（ビア山）は国内最高峰（２，８２０m）である。

ラオスの人口は６２６万人（2010年現在）である。そのうち約１０％がビエンチャン首都に集中している。民族も多様性があり、その数６８ともいわれ、独自の文化を育んできた。大きく分けるとモン族、ヤオ族、アカ族などの民族になる。また、ラオスの料理、言葉、服装、観光スポットや世界遺産の街はパワーポイントのスライドにて紹介させてもらいます。

ラオスの小学校への教育支援活動：

１）**目的**：ラオスの小学生たちは基礎知識や社会知識が他の国の小学生と比べ、低い傾向にある。そのため、主な日常生活の基礎知識の教育器具やものを寄付する活動を行い、良い環境で勉学を支える。

２）**実施内容**：２０１１年９月２６～２７日（２日間）、ビエンチャン首都内の２市（サイタニー市とパックグーン市）のそれぞれ５校の小学校に文房具や教育用のポスターなどの寄付を行った。

３）**将来の計画**：ラオスの文部科学省によると、勉学が恵まれない環境の小学校がたくさんあるので、近い将来、ラオスの小学校（ビエンチャン首都を含めて他県にも）へ小学生たちに良い環境を支えるための教育支援活動を続けたい。